

# 乾燥濾紙血液による妊婦甲状腺疾患の マススクリーニングとその意義について

村田光範<sup>1)</sup>, 澤田和子<sup>1)</sup>, 松本 勝<sup>2)</sup>, 岡田紀三男<sup>3)</sup>

- 1) 東京女子医科大学第二病院小児科
- 2) 東京都予防医学協会
- 3) 東京母性保護医協会

## I. はじめに

甲状腺機能異常を有する妊婦は、比較的多いことが予想される。今回、本研究に御協力いただいた東京母性保護医協会加盟の10病院を、昭和55年8月から昭和57年8月までに初診した妊婦14,770名のアンケート調査およびその中から、このマススクリーニングで初めて発見されたものを含めると、約150名に1名が何らかの甲状腺機能異常があった。この数字は、妊婦が20歳から30歳代の女性であることを考慮すると、決して異常に高いものとはいえないのである。これらの異常のすべてが、直ちに妊娠の障害、胎児や新生児への悪影響と結びつくものではないが、なかには当然、早急に治療の必要な症例もあり、今回の研究では、多く見積って1000名、少なく見積っても1500名に1名は、発見の時点で加療の必要なものであった。そこで妊婦の甲状腺機能マススクリーニングは意義があると考えられる。

## II. 対象と方法

対象は、前述の10病院を、昭和55年11月から昭和57年11月までに初診した16,708名である。妊娠週数は主に4週から11週で、平均8.9週であった。初診に限った理由は、できるだけ早期に疾患を発見することと、妊娠経過により、正常妊婦でも甲状腺機能の変動がみられるからである。この点は、血中遊離サイロキシンを測定することなどで解決するが、現在は主に経費の問題もあって、下記の方法によっている。

方法は、現行の新生児代謝異常マススクリーニングと全く同様の濾紙で作製した乾燥濾紙血液を用い、サイロキシン(T<sub>4</sub>)、TSH、TBを測定する。血液は初診時検査に用いた静脈血の残りでありよい。

甲状腺機能異常の判定は図にあげた基準によっている。この方法だと、甲状腺機能が正常な橋本病は甲状腺機能正常群に分類されることになるが、現段階では混乱を避けるため仕方がないと判断している。しかし

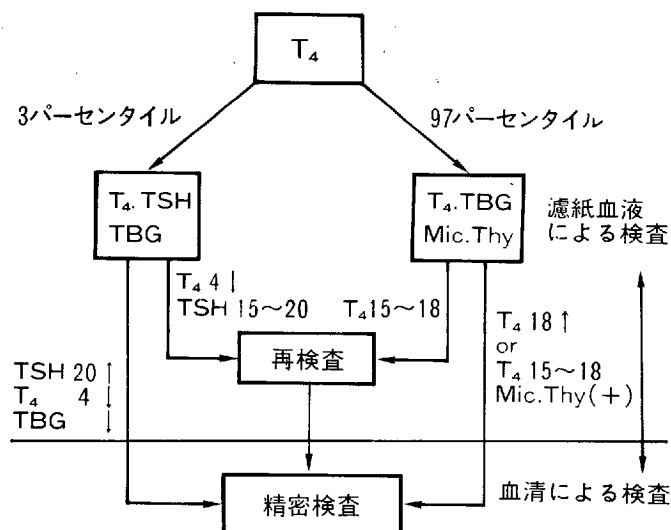
今後の研究課題であろう。

## 結果と結論

前述の16,708名の妊婦のうち、精密検査の対象になったのは119名(0.71%)であり、その65名が精密検査に応じた。精密検査の結果37名に甲状腺疾患があり、このいずれも初めて発見されたものである。疾患の内訳は表に示した通りである。妊娠経過中治療を要したのは、亢進症8名、低下症3名であった。確定診断のついた亢進症6名(5名治療)、低下症1名(治療)、橋本病2名、甲状腺腫6名の計15名につき出産後の母子を検査しているが、橋本病の1例でIU GRと新生児一過性甲状腺機能亢進が、甲状腺腫の1例で新生児一過性甲状腺機能低下症があった。甲状腺腫で流産と過体重児が各1例、橋本病で早産1例があった。また産後の甲状腺機能低下症と甲状腺機能亢進症が各1例あった。

甲状腺疾患として管理を要する妊婦は1000名から1500名はいと推定できる。

## 妊婦甲状腺スクリーニングの流れ図



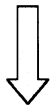
## スクリーニングによる甲状腺異常例

昭和55年11月～昭和57年11月(対象者数 16,708名)

疾患名	例数		小計
	既往治療あり	未治療	
甲状腺機能亢進症	3	11	14
甲状腺機能低下症	1*	2	3
慢性甲状腺炎	0	7	7
甲状腺腫	0	13	13
合計	4 (3)	33 (10)	37 (13)

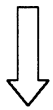
\* 甲状腺乳頭腺癌術後の甲状腺機能低下症

( ) 内は即要治療例



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 結果と結論

前述の 16,708 名の妊婦のうち,精密検査の対象になったのは 119 名(0.71%)であり,その 65 名が精密検査に応じた。精密検査の結果 37 名に甲状腺疾患があり,このいずれも初めて発見されたものである。疾患の内訳は表に示した通りである。'妊娠経過中治療を要したのは,亢進症 8 名,低下症 3 名であった。確定診断のついた亢進症 6 名(5 名治療),低下症 1 名(治療),橋本病 2 名,甲状腺腫 6 名の計 15 名につき出産後の母子を検査しているが,橋本病の 1 例で IUGR と新生児一過性甲状腺機能亢進が,甲状腺腫の 1 例で新生児一過性甲状腺機能低下症があった。甲状腺腫で流産と過体重児が各 1 例,橋本病で早産 1 例があった。また産後の甲状腺機能低下症と甲状腺機能亢進症が各 1 例あった。

甲状腺疾患として管理を要する妊婦は 1000 名から 1500 名はいると推定できる。